

平成29年度 第2回豊田市スポーツ推進審議会 会議録

【日 時】 平成30年3月15日(木) 午前10時～正午

【場 所】 豊田市役所 教育委員会議室

【出席者】 (委 員) 菊池 秀夫 (中京大学スポーツ科学部 教授)《会長》
梅村 正幸 ((公財)豊田市体育協会 事務局長)《副会長》
岩月 富士雄 ((一社)豊田市身障協会 理事)
岩月 幸雄 (健康づくり協議会 会長)
加藤 恵美子 (豊田市スポーツ推進委員協議会 会長)
岸田 多加司 (トヨタ自動車(株) 人事部 グループ長)
近藤 典彦 (豊田市区長会 書記)
酒井 康成 (高齢者クラブ連合会 スポーツ部長)
千賀 啓三 (豊田市サッカー協会 会長)
田中 希代子 ((株)名古屋グランパスエイト 広報コミュニケーション部)
谷山 由香利 (豊田市女性スポーツ団体協議会 会長)
手嶋 道雄 (豊田市スポーツ少年団 本部長)
藤田 武士 (中小学校体育連盟豊田支所 副支所長)
安江 与志幸 (豊田市ラグビーフットボール協会 理事)

【欠席者】 (委 員) 徳増 年彦 ((株)豊田スタジアム 取締役事業推進部長)

【事務局】 福嶋 兼光 (教育長) 塚本 誠 (生涯活躍部長)
辻 邦恵 (生涯活躍部副部長) 村中 正史 (スポーツ課長)
畔柳 隆二 (スポーツ課副課長) 山本 肇 (スポーツ課担当長)
杉坂 直輝 (スポーツ課主事)

【傍聴人】 0人

【次 第】 1 生涯活躍部あいさつ
2 会長あいさつ
3 議題
(1) 第3次豊田市生涯スポーツプラン行動計画(案)について
(2) スポーツ施設整備の現状と方向性(案)について

【会議録（議題部分のみ）】

■議題（１）第３次豊田市生涯スポーツプラン行動計画（案）について

事務局：資料に基づき説明（資料１：P 1～P 1 2）

会 長：説明事項について、ご意見、ご質問があればお願いします。

委 員：今後のスポーツ振興策の中で、アンケート結果から、市民が参加できるスポーツイベントが一番多かったということですが、具体的にどのようなものでしょうか。

事務局：アンケートの中では、どのようなイベントかというものは出ていません。市民マラソン大会や、市民総合体育大会、そして今年度から始めたウォーキング大会といったものが考えられます。

委 員：私自身悩むところですが、P 1 1の高齢者の健康づくりについてです。私ども健康づくり協議会は、ウォーキングを一番のメインに据えて活動していました。昨年から「高齢者の元気アップ教室」を推進しています。この活動はスポーツとして認められるのでしょうか。元気アップ教室は地域保健課主催で開催している。その後、自主グループという形で活動しています。現在150グループが、月1、2回活動してます。今年度30グループ増加見込みで、近いうちに200グループを越える予定です。年代は、70～80歳代。内容は、ストレッチ、筋トレ、ヨガサイズです。スポーツの中に入るものなのかどうか、見解を教えてください。

部 長：教育行政計画において、本計画におけるスポーツの定義を第2次豊田市生涯スポーツプランから示しています。競技スポーツや学校体育だけでなく、ウォーキングや散歩、外遊びやキャンプなどの野外活動、買い物、通勤といった日常生活における身体活動を含めた活動もスポーツに含むものとして捉えています。

委 員：そういうことであれば、新たに項目が必要になってくるのではないかと。

部 長：そのように思います。実態に合わせて項目の変更が必要になってくると感じています。この結果は、豊田市の教育に関するアンケート結果を基に算出しています。今後、その実態に合わせて質問項目を修正していかなければならないと考えています。

委 員：私は、障がい者という立場でスポーツ推進に取り組んでいます。ないところを補てんするために残された機能を生かし、充実させなければいけない。それが障がい者の使命だと考えています。これが福祉なのか、スポーツなのかという点が、懸念事項と考えています。

会 長：大分県の車いすマラソンが有名です。このマラソンを考案された方も、残されている機能を使うという考えのもと、活動しています。方向性としては、スポーツとして捉えていけるのではないのでしょうか。

事務局：このあたりの項目については、今後見直しをさせていただきます。その際は、相談に乗っていただきたいと思います。

事務局：資料に基づき説明（資料１：P 1 3～P 2 3）

会 長：説明事項に限らず全体的なことでも構いませんので、ご意見、ご質問があればお願いします。

委 員：P 1 5について、事前送付の資料から変更されています。そのあたりについて説明をお願いします。特に、地域学校支援本部という言葉が削除されていることについて説明をお願いします。

事務局：関係各課と事前に調整を図りました。そこで「地域学校支援本部」については、現在内容について詰めている段階であり、本行動計画に掲載した場合、スポーツ教室を開催する機関という認識を与えてしまうことが考えられることから、今回削除させていただきました。

委 員：地域スポーツクラブはする人、支える人がいてうまく循環していきます。その全体をコントロ

ールする役割を担う人が一番難しい立場です。スポーツ教室の開催数や指導者数の地域差が生じています。その点については、どうしていくのでしょうか。

事務局：おっしゃられる通り、地域スポーツクラブは中学校区を中心に活動しています。地域スポーツクラブの連携強化は、そのあたりの溝を埋められないかという観点で取り組んでいきたいです。自分たちの中学校区以外にも活動を広げていきます。地域スポーツクラブだけでは、人手が足りない部分については、スポーツ推進委員やヘルスサポートリーダー等と協力する必要があると考えています。

会 長：スポーツクラブ連合会というのも、その延長線上にある構想と考えていいのでしょうか。

事務局：構いません。

部 長：先ほど話のありました、豊田市のスポーツ全体をコントロールするリーダーについてです。現在、体育協会が、競技種目の団体のことや今後、地域スポーツクラブ連合会の事務局機能を果たすということで話を進めています。子どもの活動の多様性を把握できるのは体育協会だと思っています。今後は加盟団体だけでなく、地域のスポーツ事情についても体育協会に情報を集め、全体の情報を把握できる場所として体育協会の体制強化も図りたいと考えています。行政と学校と地域スポーツクラブを調整していただけるような機能を体育協会に期待したいと思っています。

委 員：体育協会内部でもそういった協議を進めています。加盟した地域スポーツクラブとの調整会議も行っています。子どもの中でも、スポーツをやっていない子どもに地域スポーツクラブで体を動かしてもらい、目標を持った子どもが少年団に参加してもらうという流れがいいと思っています。そういった仕組みを作っていくのが大切だと考えます。

委 員：子どもが多種目を経験しながら育てていこうという方針は変わっているのでしょうか。

委 員：子どもが多種目を経験することは、あくまできっかけづくりです。親も目標をもって取り組まない子どもの遊びにいつまでもお金を払うことは難しいと考えます。

事務局：地域スポーツクラブの中でも、子どもを交えてあらゆるスポーツと触れ合う機会を設けています。その中で、やりたいスポーツが見つければ、地域スポーツクラブ内の教室参加や競技団体の方へ移行していくという枠組みができつつあるのが現状です。

委 員：親に金銭的余裕がないと、スポーツに取り組むことが難しいという声を聞いたことがある。そのような子どもがスポーツに取り組む仕組みがありますか。

事務局：子どもたちのスポーツ振興を狙って、会場の使用料は減免制度を設けています。

部 長：教室自体も低料金や無料で開催しています。

事務局：保険や講師謝礼といったものは、どうしても必要になってくるものです。その負担は常識であると認識しています。

委 員：P 1 3 成果目標についてです。とにかくスポーツに参加していく人を増やそうということを目指しています。子どもの体力向上は、年々落ちており、達成が難しい状況となっている中、今後、体力向上は成果目標に入ってこないという認識でいいのでしょうか。

事務局：豊田市は元気っ子プログラムという事業を展開しています。全国的にも体力テストの結果は落ちていますが、昭和60年の数値に戻すことは難しいと思っています。今後は、元気っ子プログラムを通じて、体力向上を図っていきたいと考えています。

事務局：今の意見に加えてですが、現場の先生に聞くと、子どもの体力テストの結果は、定力テスト種目の練習をすることで、結果は変わります。そのような数値が成果指標にふさわしいのかどう

か、疑問に感じています。そのため、今回は普段の生活からどの程度スポーツをしているかという指標の方が現状を捉えやすいのではないかと、今回は外しています。

委員：教育行政計画でも体力テストの結果は気にしないということだったので、同じ方針かどうか確認をさせていただきました。

委員：P17高齢者の健康づくりの推進についてです。マレットゴルフ協会の会員数は1,700名以上います。登録されてない方も多くいます。そういった方々のマレットゴルフ場の利用の無料は継続と考えていいのでしょうか。

部長：現在、有料化に向けた議論は一切行われていません。

委員：大会運営については、参加費は必要となってきます。

委員：大会参加費については理解しています。

委員：障がい者の施設利用について、減免されていません。他市行政と比較しても厳しい対応なのではないでしょうか。

事務局：料金については、減免や割引を設けていません。今年度当初課内で協議を行いました。その中で、豊田市の教育に関するアンケートの中で、スポーツをやらないのはなぜかという設問に対し、「お金がないから」という回答の割合は低いという結果がでています。料金を下げたからと言ってスポーツの普及につながらないと判断しました。

部長：使用料について審議する組織が市役所のなかにあります。今の話は、施設の減免ということと、障がい者の運動支援といった両面があると思います。今のご意見は、施設の利用の審議の際に残るものですので、今後参考にさせていただきます。

委員：ありがとうございます。

会長：それでは、またご意見等ございましたら、ご質問していただければと思います。

■議題（2）スポーツ施設整備の現状と方向性（案）について

事務局：資料に基づき説明（資料2）

部長：毘森公園のプールについては、休止とする。施設については、廃止とさせていただきます。修繕するにも、新設並みの費用がかかってしまうことがわかっています。市民の皆さんの影響についても、丁寧に調査をしました。豊田スタジアムや加茂川のプールで受け止めることができましたという結果が出ております。議員のみなさんにもご意見をいただき、来年度の予算として、議案としてかけられています。審議会委員のみなさまには、事前にご意見を頂戴したかったが、できずに申し訳ありません。今後のプールについては、民間の状況も含め検討し、今後の議論としたいと考えています。

委員：夏場の学校のプール開放は現在行われているのでしょうか。

事務局：学校プールは、保護者の協力を得て、プール開放を行っています。現在期間は短縮して行われています。学校と保護者との合意によって運営されています。

委員：A小学校では、夏休みに約8日間開催されています。地域の協力を得られれば、もっと開放は可能となります。ボランティアだと炎天下のもと立ち会っていただくのは難しいと思います。来ていただく保護者には事前に、AED等の講習を受けていただいています。

会長：指定管理として、学校開放を運営するといったようなことはいかがでしょうか。

部長：各校にせっかくプールがあるので、活用しない手はありません。ボランティアを含めた管理体制が整って、学校側のご理解が得られれば、今後の有効な方策として考える必要があると思っ

ています。子どもたちの泳力が落ちているという意見はずっと引っかかっていますので、その問題を解決する手段を考えていかなければいけません。

会 長：ほかにご意見はありますか。

委 員：この施設の基本方針については、来年度考えていくということによろしいでしょうか。

事務局：はい、大丈夫です。

委 員：体育館は、床が命です。多目的に使用されるスカイホール豊田などは床の痛みが早いので、床の張り替えスケジュールも検討していただきたい。また、資料に記載のある野球の全国大会とはどの程度のものと考えているのでしょうか。

事務局：社会人野球の日本選手権や都市対抗野球を想定しています。

部 長：全国大会の定義が高すぎるのではないかとのご指摘ということですね。ご意見ありがとうございます。

委 員：スポーツをしない子どもに対しては、始めるきっかけが大切です。新しいことに取り組むと世界が広がります。スポーツをしていない子にいきなり火をつけてあげるかという点で、お考えがあれば伺いたいです。

事務局：その点は、私どもも命題とさせていただいております。効果的な施策というものは持ち合わせていないのが現状です。資料1に上げさせていただいた事業をひとつひとつ着実に実行していくことで、スポーツをやるきっかけとなればと考えています。

委 員：学校現場でも、きっかけづくりに悩んでいます。現場もしっかり考えていかなければいけないと考えています。

部 長：豊田市民はイベントへの参加が好きな市民性があります。いろんなスポーツを少しずつ体験できるイベントを開催することが、きっかけづくりにつながるのではないかと考えています。

委 員：市ラグビー協会も、今年豊田市アート体験フェスタに、ラグビーブース出展という形で協力させていただきました。普段スポーツに関わりのない着物を着た年配の方がラグビーボールを触っている姿をみて、スポーツイベントだけでなく、スポーツ以外の分野のイベントへの出展も面白いなと感じました。

会 長：ありがとうございました。それでは、以上をもちまして会議を終了させていただきます。今後の行動計画の修正については、会長である私と事務局に一任していただくということによろしいでしょうか。

全 体：異議なし。

会 長：ありがとうございました。それでは、事務局にお返しします。

以上